



第268号

2025年11月号

日本基督教団 梅ヶ丘教会会報

ぶどうの木

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2025年10月26日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL: 03-3414-5772
FAX: 03-3414-5778



『聖書の言葉に向き合う』

牧師 広田叔弘

聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。

テモテへの手紙二 3章16節

10月31日は宗教改革記念日。この日、マルティン・ルターがヴィッテンベルク城教会の扉に「95箇条の論題」を公示したことが始まりでした。宗教改革には三つの柱があります。「信仰のみ」「聖書のみ」「万人祭司」以上の三つです。このうち聖書について考えてみましょう。

当時の教会は聖書と共に聖伝を重んじていました。聖伝とは、教会会議で決めた諸々の決定や聖人たちの教えのことです。これらを聖書と共に信仰のよりどころにしていました。これに対してルターは、「我々がよって立つところは聖書の言葉のみ」としたわけです。

ここで問われるのは聖書の言葉にどのような向き合うかです。サムエル記上15章3節には次のように述べられています。

「行け。アマレクを討ち、アマレクに属するものは一切、滅ぼし尽くせ、男も女も、子供も乳飲み子も、牛も羊も、らくだもろばも

打ち殺せ。容赦してはならない。」

神による皆殺しの命令。受け入れがたいところですが。この出来事はおおよそ3千年前に起きたことです。現代にはない文化や宗教的な考え方があります。では私たちは、どのように聖書の言葉と向き合えばよいのでしょうか。

昔から行われてきた明確な方法があります。それは「使徒の信仰を規範にすること」です。具体的には、礼拝のたびに告白している「使徒信条」の信仰に従って聖書の言葉に向き合うことです。使徒信条は神さまに対して次のように告白しています。

「我は、天地の造り主、全能の父なる神を信ず。」神は天地の創り主。神の御手から漏れているものは一つもありません。神は全能。すなわち唯一の神。そして神は父。主キリストが神を父として示しました。神さまは父親として愛であり、全ての命を創り、世を治める方。信頼をもって崇めるべきお方です。このように、使徒の信仰(使徒信条)を規範として聖書に向き合います。このとき、聖書から何を聴くかが明らかになります。

聖書は聖霊によって記された神の言葉です。自分の理解力を頼みにして読みこなすものではありません。聖書から神の言葉を聴いてキリストに出会うものです。実際に読む場合でも、聴く心をもって聖書に向き合いたしましょう。